

# Topic!

昭和30年(1955)年に朝堂院南門跡が発見されて以降、長岡京の発掘調査が本格的に開始されました。長岡京の発掘調査は2000回を超えましたが、長岡京全体からみればまだまだわずかな面積です。調査が実施されるたび、新たな発見があり、長岡京の実像は少しずつ明らかになってきています。

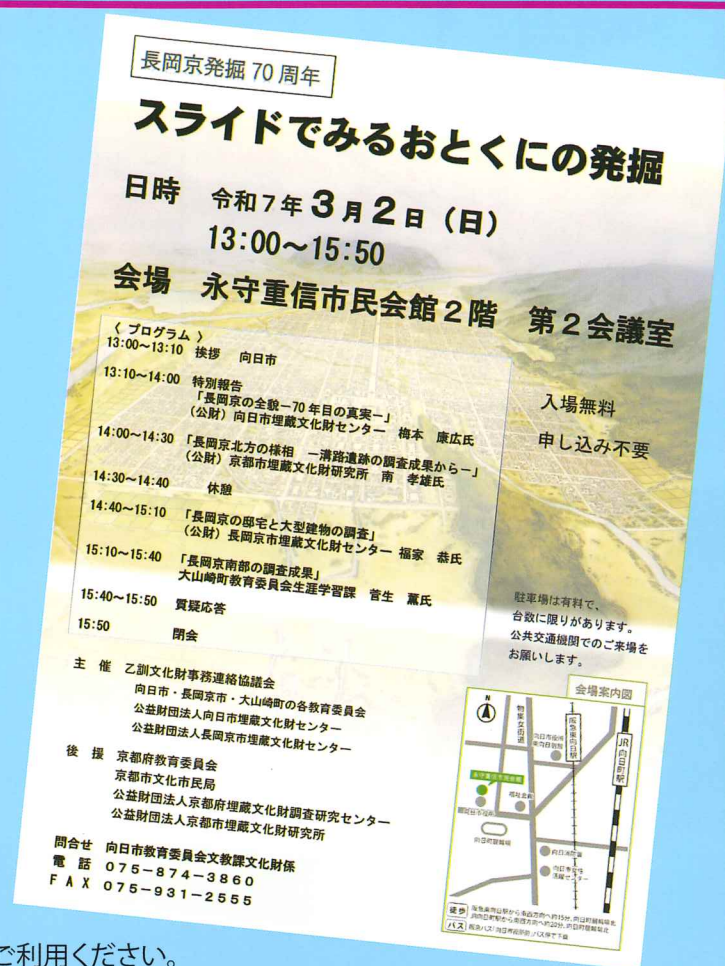
令和6年度

## 長岡京発掘70周年 スライドでみるおとくにの発掘

毎年3月に、最新の発掘調査成果をお知らせしてきた「スライドでみるおとくにの発掘」。今年は、長岡京発掘70周年の節目を記念して、これまでの発掘調査の歴史を振り返りつつ、新たに分かってきた調査成果をお伝えします!

- 【日時】 令和7年3月2日(日)  
13時00分 ~ 15時50分
- 【会場】 永守重信市民会館2階 第2会議室  
向日市寺戸町中野20番地
- 【参加について】  
定員80人程度  
申し込み不要・先着順・入場無料

※駐車場は有料で、台数に限りがあります。公共交通機関をご利用ください。



長岡京を知るにはまずココ!

## 中山修一記念館

中山修一記念館は、長岡京の解明に大きな業績を残された中山修一氏の足跡や、研究成果を一目で見ることのできる施設として整備され、平成14年(2002)に開館しました。

今では、恵解山古墳や勝龍寺城などの史跡、勝竜寺や神足神社などの寺社、西国街道など市域南部における歴史散策コースのひとつに位置付けられ、郷土学習の拠点としても活用されています。

## ACCESS アクセス

- 阪急西山天王山駅徒歩12分
- JR長岡京駅、阪急西山天王山駅よりバス  
久貝(くがい)下車 徒歩1分(※5,6,7,48,90系統)
- 駐車場3台。駐輪場有り。



『Moshi-mosuVI』vol.27 Winter

発行：長岡京市教育委員会文化財保存活用課 京都府長岡京市天神4丁目1番1号/令和7(2025)年2月

発掘70周年「長岡京」特集号

# Nagaokakyo 70 Years of Archaeological Discoveries

悠久の歴史にふれる 長岡京発掘70年の軌跡



かつて「幻の都」とされていた・・・「長岡京」。

中山修一氏は、水田の長さが長岡京の条坊地割の名残であることに気づき、その存在を確信しました。教員をしながら京都大学で学び、現地を歩き、地名や文献と向き合って「長岡京条坊復元図」を完成させます。昭和30年には朝堂院南門を発見し、実在の都であることを証明しました。

中山氏は私財を投げうって調査組織を立ち上げ、自ら調査の先頭に立って、長岡京の存在を世に発信し続けました。後進の指導と研究、啓発活動が続けられた中山氏の意志は、今も多くの人の心に生き続けています。



# 長岡京市の発掘 70 年

## 市内の主な発掘調査

昭和 53 年 (1978) 右京第 10・28 次調査  
～長岡第九小学校建設に伴う調査～  
多くの建物や巨木を削り貫いて井戸枠に使用した大きな井戸、朱雀大路の西側溝など貴重な遺構が数多くみつかりました。

昭和 54 年 (1979) 右京第 25 次調査  
～長岡第十小学校建設に伴う調査～  
縄文時代から平安時代にかけての遺構・遺物がみつっています。長岡京の遺構では大規模な邸宅跡が確認され、市内ではトップクラスの規模です。平成 29 年 (2017) には、放課後児童クラブ建設に伴って右京第 1158 次調査が実施され、大型建物が「コ」の字に配置されていたことが改めて確認されました。かなり有力な貴族の住まいだったのでしょう。

昭和 57 年 (1982) 右京第 104 次調査  
～長岡第四中学校建設に伴う調査～  
西山田遺跡では土馬や墨書人面土器など大量の祭祀遺物が出土しました。いくつか確認されている、長岡京を守る国家的な祭祀場のひとつとみられます。

昭和 61 年 (1986) 右京第 217 次調査  
～成安短期大学移転に伴う調査～  
長大な建物の中に大甕を据えた跡が 51 個もみつかりました。木簡の内容から、酒の醸造施設と考えられています。平成 23 年 (2011) 立命館中学校・高等学校の移転に伴う調査 (右京第 1019 次調査) では、全国でも最大規模の大甕が出土しました。

平成 11 年 (1999) 右京第 630・654 次調査  
～JR 長岡京駅前再開発に伴う調査～  
周囲を溝で囲った四町規模をもつ特異な建物群がみつかりました。同一規模の建物が整然と並んでいて、長岡京造営に関する施設とみられています。

平成 12 年 (2000) 右京第 688 次調査  
～長岡京西市推定地付近の調査～  
「蘇民将来之子孫者」と書かれた小さな木札がみつかりました。蘇民将来の子孫を名乗ることで災いを逃れるという民間信仰で、祇園祭の粽でも有名です。全国にみられますが、これは最も古い例となります。小さな穴が開いていることから、紐を通して身に着けていたようです。

平成 30 年 (2018) 右京第 1177 次調査  
～長岡京病院建設に伴う調査 (天神一丁目)～  
少なくとも東西二町域を有する宅地で、大規模な掘立柱建物が見つかり、長岡京の東院や離宮推定地などで出土する「旨」字が刻まれた軒丸瓦が多くみつかりました。遺構や遺物の内容から、離宮などかなり重要な施設と推定されています。

平成 30 年 (2018) 右京第 1180 次調査  
～京都済生会病院建設に伴う調査 (下海印寺)～  
南側を築地塀で画したほぼ一町域を有する大規模宅地がみつかりました。大型の正殿と 2 棟の脇殿、倉庫や門などが整然と並びます。これらの遺構群は一般的な長岡京の遺構と異なり、全体が西に 8 度傾いています。建設時期に差があるのかもしれませんが、いずれにしても、高位の貴族の邸宅であることは間違いありません。

令和 5 年 (2024) 右京第 1304 次調査  
～長岡京駅前線道路拡幅に伴う調査～  
長岡京の道路を横断する溝から、祭祀用の土器が多く出土しています。右京では調査が 1300 回を超えました。

2025

2017

2018

2011

2000

1999

1990

1980

1978

1966

1955

## 長岡京 (宮) の発見

乙訓寺講堂跡の発見  
(長三小・右京第1次調査)



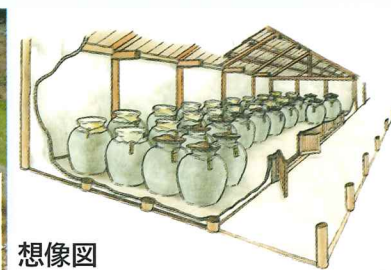
大量に出土した祭祀用の土製品 (長四中)

埋蔵文化財センター設立  
1982

朱雀大路の西側溝を発見  
(長九小での現地説明会の様子)



酒醸造施設と日本最大級の大甕 (立命館中・高)



想像図



貴族の邸宅跡を確認 (長十小)



未知の離宮か? 大型建物の発見 (長岡京病院)



醸造施設とみられる大型建物 (済生会病院)



「蘇民将来」木簡  
(西市付近で出土)



規則的に配置された建物群 (JR 長岡京駅前)



四仙騎獣八稜鏡  
(スポーツセンター前身施設で出土)



迷子を探す木簡  
(東市付近で出土)

## 784 長岡京遷都

## 長岡京 (宮) の発見

昭和 30 年 (1955) に現・朝堂院南門が発見され、長岡京の実在が明らかとなりました。この発見に尽力されたのが中山修一氏です。それ以後、京都大学考古学研究室の指導のもと、大極殿や朝堂院など主要な施設が次々と発見され実態が明らかになっていきます。当時は、中山氏とその教え子や学生による無報酬、手弁当によるものでした。その後、中山氏の懸命な陳情活動により、宮域を中心とする学術調査が京都府によって開始されました。

## 長岡京市初の調査

昭和 41 年 (1966) 長岡第三小学校の建設に伴って発掘調査が行われました。ブルドーザーに迫られる中、乙訓寺の講堂跡や瓦窯などがみつかり、長岡京市で初めての調査として大きな成果をあげることができました。この時は、乙訓寺の第 1 次調査として実施されましたが、後に長岡京右京での第 1 次調査とされました。昭和 46 年 (1971) には公費による学術調査を京都府が、開発に伴う調査を中山氏が私的に組織した長岡京跡発掘調査団が行うようになりました。

## 京域に広がる調査

昭和 49 年 (1974) 向日市の京都府立向陽高校建設に伴う発掘調査 (左京第 2 次) で、長岡京の道路や建物、大量の遺物がみつかり、宮域だけでなく左京域にも長岡京の遺構が広がっていることが明らかになりました。調査を担当した京都府教育委員会の高橋美久二技師は、中山氏と共に京域調査の必要性を説きました。関係各位の努力の結果、昭和 50 年 (1975) には長岡京の左右京域も周知の遺跡として登録され、発掘調査が進展することになります。

## 発掘調査体制の整備

開発工事に伴う調査は、調査ごとに組織された長岡京跡発掘調査団が実施していましたが、昭和 51 年 (1976) に長岡京跡発掘調査研究所と名称変更し、向日市、長岡京市、大山崎町での調査を恒常的に行うことになりました。その後、各市町に文化財担当職員が配置されるようになり、調査主体が徐々に行政に移っていきます。昭和 57 年 (1982) には財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが設立され、今日に至るまで数多くの発掘調査を実施してきました。